

10・11月の授業・・・

「秋の科学実験教室」そして、多様なイベントも
たのしく生き生きと活動したい!

「いい加減」は「よい加減」の発想で!



■「誰でも描ける・絵画入門」・・・キミ子方式で<ねこじゃらし>!

ネコジャラシ・・・



エノコログサ（狗尾草、学名：Setaria viridis[1]）は、イネ科エノコログサ属の植物で、1年生草本である。ブラシのように毛の長い穂の形が独特な雑草である。

*

夏から秋にかけてつける花穂が、犬の尾に似ていることから、犬っころ草（いぬっころくさ）が転じてエノコログサという呼称になったとされ、漢字でも「狗（犬）の尾の草」と表記する。ネコジャラシ（猫じゃらし）の俗称は、花穂を猫の視界で振ると、猫がじゃれつくことから。

<キミ子方式>とは

- ①色は<赤・青・黄色>の3原色と白の4色で描く。
- ②題材によって、描き始めの一点を決める。
- ③その一点から「植物だったら成長の順番に」「動物だったら毛の流れに」「人工物は作っていく順番」に、・・・<となり、となり、>と下書きをせず（直接絵の具で描きすすめていきます。（人工物は下書きあり）
- ④描きすすめて、絵が画用紙に入らなければ、画用紙を足して大きくし、逆に画用紙に対して絵が小さかったら回りの余白を切って、絵に合わせます。つまり、画用紙の大きさに合わせて描くのではなく、画用紙の大きさを絵に合わせるという発想です。★モデルは、本物のモデルを用意。想像して描くではありません。
- ★背景を描くことのないようにします。
- このように、今まで絵を描いてきて失敗になるような要素をなくしていきます。これが<キミ子方式>の簡単な説明です。初級入門コースは・①色作り②もやし③イカ ④毛糸の帽子 ⑤空 ⑥ハガキ絵 ⑦カット ⑧季節の野菜
- 中級コース①季節の草花・・・と続きます。●今日は、初級コースを飛ばして、いきなり、中級コース①季節の草花・野草・・・を描くことにします。今日の授業は、長く<キミ子方式>の授業を実践してきた、竹内清和先生の指導で進めます。

皆さん! たのしくチャレンジして下さい。

●昨日、ノーベル賞をもらった大隅さんの奥さんへのインタビューで「いい加減が、良い加減」という言葉が、奥さんの口から出てきました。仮説関係の人ではないと思いますが、こういう発想する人が、仮説以外でもいることが分かりました。この「発想法」は、一般の人にも広めたいですね。
(水口民夫<ルネサンス大阪高校>教頭)

★この言葉は、古くから使われていたようですが、「意識的広めるようにしてきたのは私たちの研究会だけかもしれません」それだけに、ニュースでこのフレーズが出てきたときはびっくりしました。板倉先生も東大、このご夫婦も東大どこかで繋がっていると嬉しいのですが。(音田)

*

●嬉しいニュースがもう一つ！先日の日本女子オープンゴルフで優勝した畑岡奈紗さん(17歳)は、<茨城ルネサンス高校>の生徒でした。通信制の<ルネサンス高校>10月10日には、<ルネサンス大阪高校>で研究会を開催します。多様な問題を抱えた子ども達もこの高校で学んでいます。ご支援を！

いい加減は
かげん
よい加減
かげん

●いい加減の哲学●

改めてこう書いてみると、「いい加減」という言葉は不思議な言葉であることに気づくことでしよう。「いい加減」という言葉は、ふつう悪い意味で使われているのですが、文面だけを見るという意味に使ったほうがいいようにも思えるからです。このことわざはその矛盾をついたものです。

誰か管理監督者が他人を自分の思い通りに動かそうとするとき、その他人が自分の判断でへよい加減にやるのを制止しようとして、こんな複雑な言葉ができたのかも知れません。自分の判断でそれぞれへよい加減にするバランス感覚を持ちたいものです。

もの見方考え方シリーズ②「発想法かるた」板倉聖宣著(仮説社)



11月20日(日)10時~15時

<大淀子どもプラザ>を開催します！

①科学実験教室・3クラス(各30名)★<かがやけ10円玉>★<水の表面>★<イオンと食べもの> ②1階ホール・<もの作り>10ブース(SA子ども教室・担当6ブース) ●<大淀子どもプラザ>は、初めての企画。ご支援ください！どうぞよろしくお願ひします。